京都産業大学 DAY 2010
社会へ、未来へ。

最先端の生命科学研究に触れてみませんか
京都産業大学 総合生命科学部
第7・8回バイオフォーラム2010

第7回 11月10日(水)開催

■講師■■■■■■■■■■■■■■

京都産業大学 総合生命科学部 生命資源環境学科

河邊 昭 准教授

■内容■■■■■■■■■■■■■■

「シロイヌナズナ近縁種の動原体およびその周辺領域の進化的解析」

動原体は細胞分裂の際に染色体を正確に娘細胞に伝えるために必要不可欠なものであり、遺伝情報の子孫への伝達という重要な役割を担っています。シロイヌナズナの近縁種に関して動原体とその周辺領域の進化パターンについて紹介します。

■講師■■■■■■■■■■■■■■

京都産業大学 総合生命科学部 生命資源環境学科

木村 成介 准教授

■内容■■■■■■■■■■■■■■

「ガラパゴス諸島に固有の野生トマトに観察される葉形態の自然変異の発生機構」

進化論で有名なダーウィンはガラパゴス諸島で2種類の野生トマトを見つけました。この2種の野生トマトは近縁であるにも関わらず、葉の形態が大きく異なります。この葉の形態の多様性が生じる仕組みについて発表します。

第8回 11月24日(水)開催

■講師■■■■■■■■■■■■■■

京都産業大学 総合生命科学部 生命システム学科

嶋本 伸雄 教授

■内容■■■■■■■■■■■■■■

「転写のナノバイオロジー」

ナノバイオロジーは、少数分子のミクロな挙動が、生理的なマクロ現象に現れる機構の研究だが、1分子の遺伝子DNAとRNA polymerase複合体から、遺伝子が発現する転写は、格好のテーマである。RNA polymeraseによる塩基配列読み取り機構、均質なDNAとRNA polymeraseから、活性の異なる転写複合体が形成される発見とその生理学的意義を紹介します。

《時間》
開場：１５時３０分～
開演：１６時００分～（講演時間：第７回９０分・第８回６０分）

事前申込不要・入場無料
一般の方の参加歓迎

《場所》
京都産業大学総合生命科学部 15号館 15102 セミナー室

《お問合せ》
京都市北区上賀茂本山　京都産業大学総合生命科学部事務室　Tel. 075-705-1466

《交通》※キャンパス内に駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。
地下鉄で「国際会館駅」下車→京都バス（40系統）で京都産業大学前下車
地下鉄で「北山駅」下車→京都バス（38系統）で京都産業大学前下車
地下鉄で「北大路駅」下車→市バス（北3号系統）または京都バスで京都産大前下車

《主催》
京都産業大学　総合生命科学部